

～『自ら考え、判断し、行動できる生徒の育成』をめざして～



★大谷翔平選手の 非認知能力 Part2★

2024年10月29日（日本時間30日）に左肩の亜脱臼を抱えるドジャース大谷翔平選手（30）が、「1番DH」でスタメン出場。自身初のワールドチャンピオンに輝いた。

2023年3月に行われたWBCでは『侍ジャパン』の一員として活躍し、世界一に輝いた。特に、大谷翔平選手が、自らの投打でチームを牽引し、チームを鼓舞し、世界一を達成したあの衝撃は忘れることはないだろう。



SAH JournalでもVol.14で『ロサンゼルス・エンゼルス 大谷翔平選手の「非認知能力」』というタイトルで記事を書いている。『ロサンゼルス・ドジャース』に移籍してから連日、大谷選手の活躍が報道されるなか、私の個人的な感想かもしれないが、大谷選手には多くのひとを魅了する『他の人にはない不思議な魅力』があるように思われる。例えば、

- ①デッドボールを与えてしまった相手にはすぐに謝罪のジェスチャーを送る
- ②バッターボックスに入るときは相手ベンチにいる監督にジェスチャー付きであいさつする
- ③出塁すれば、相手チームの野手と談笑し、じゃれ合う、盗塁時に野手に砂をかけてしまったらすぐに謝罪し、砂を払う
- ④試合中のグラウンドにゴミが落ちていればすぐに拾い、さりげなくユニホームのポケットに入れる
- ⑤試合中のベンチ内でメジャーリーガーたちが食べているひまわりの種を、チームメイトの後頭部に投げつけ、とぼける
- ⑥自分の愛犬「デコピン」を公の場でもかわいがり、始球式にも登場させてしまう
- ⑦チームメイトからの食事の誘いを断り、休養・睡眠を優先した生活を送っている
- ⑧肘にメスを入れ、以前のような投球ができるかわからないはずなのに打者として54本塁打、57盗塁と活躍してしまう
- ⑨ヤンキースとのワールドシリーズ第2戦で盗塁した際に左肩を脱臼したのにその後も出場し、世界一になる
- ⑩ワールドシリーズ制覇から約1週間後、肩脱臼を修復するため内視鏡視下手術を受け、来期二刀流へ再挑戦するかもしれない



などなど、こちらが見ていて「すごい」「えらい」「おもしろい」「ほっこりする」などの好印象の感想を常に抱く場面がたくさんあるのだ。しかも、「ふつうそれはしない・できない」ということを『自ら考え、判断し、行動している』のだろう。また、投手として肘にメスを入れることや、肩を手術しながら『世界最高峰の野球の舞台』で活躍するのは難しいはず。しかし、大谷選手からは『悲壮感』は感じられず、『楽しんでいる姿』が多く見られる。なぜそんな風に振る舞えるのか？なぜ困難を克服できるのか？有言実行できるのか？みなさんと一緒に、そういうことができるための『考え方』や『非認知能力』について考えてみたい。

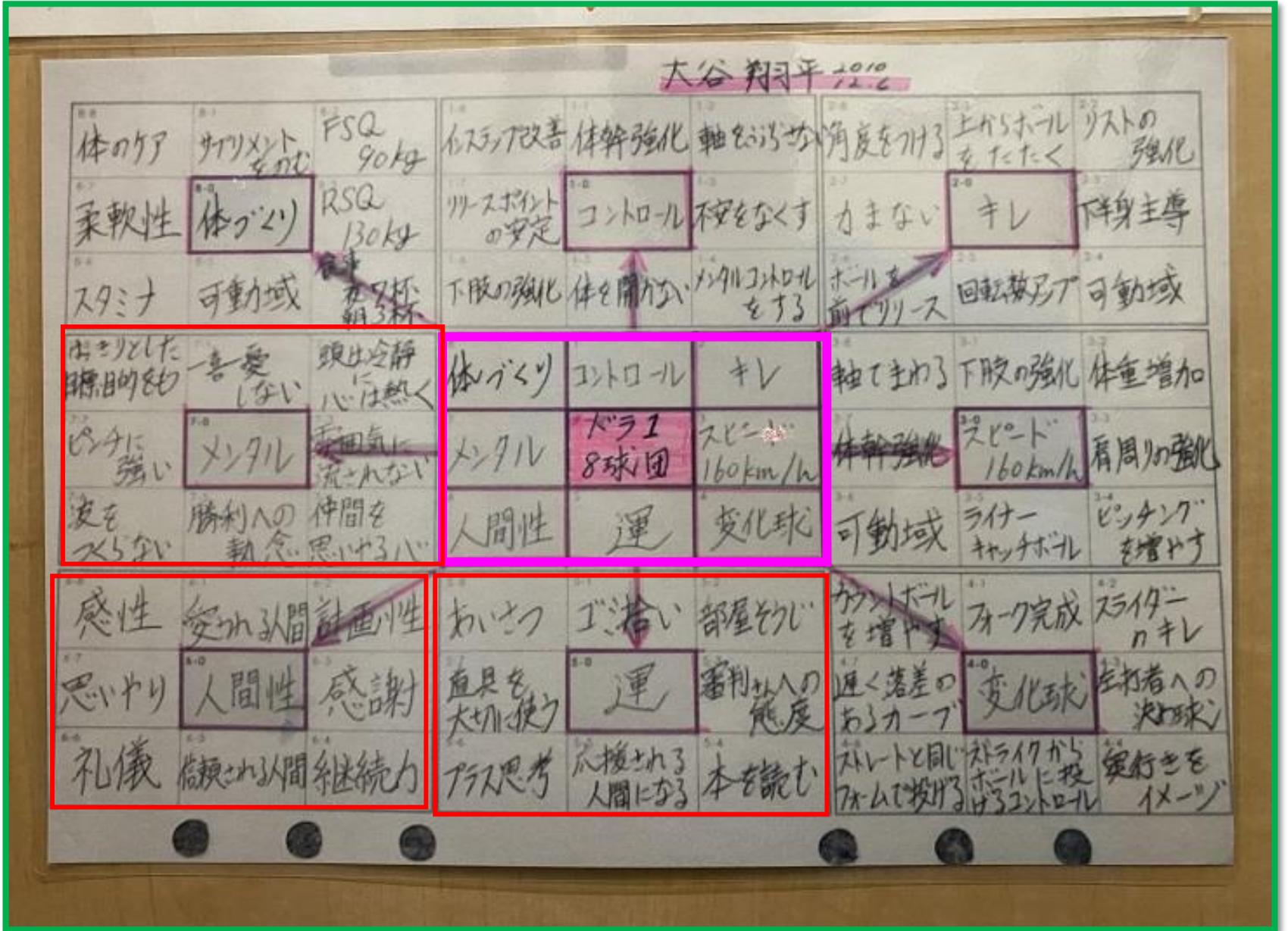
数年前のテレビCMにその答えが出ている。『僕はプロになってから928回も三振して』『打たれたヒットの数は647で』『ホームランは59本打たれ』『しかも失点数はぜんぶで281』『チャンスで506回凡退して』『怪我で692日間も投げられなくて』『試合に負けて泣いた日もたくさんあったし』『二刀流が無理だと言われたことは数えきれない』『でも、二刀流が無理だと思ったことは一度もない』という大谷選手のコトバだ。

いくつかの具体的な『失敗の数』をあげ、それに屈することなく前を向く大谷選手。昨年、肘の手術をし、投手としては出場できなかった。しかし、『残された能力』を使っただけの今シーズンの大活躍。私たちは想像することしかできないが『ベストではない状況』でも『残された可能性や限られた条件のなかでベストを尽くす』ということなのかもしれない。かえってそれは『集中できるポイント』が明確になったとも言えるのかもしれない。そこにもヒントがあるはずだ。

その上、今度は肩の手術。今年のような活躍の保証はなにもない。しかし、今度はどのように乗り越えていくのか、私たちが生きる上で参考となる点は非常に多い。彼から刺激を受け、私たちもどんなに『失敗の数』が増えようとも、『目の前にある困難』が増えようとも、大谷選手の活躍から刺激をもらい乗り越えて行こうではないか。



★高校時代の大谷選手の『目標設定シート（マンダラチャート）』★



上の『マンダラチャート』はVol.14でも取り上げたが、高校時代の大谷選手が活用していた『目標設定シート』だ。上に『2010.12.6』と日付がある。『高1の冬から春に向けた目標』ということだと思われる。

中心に『最終目標』を置き、それを達成するために『必要な項目（中間ゲート）』を設定し、周囲に並べる。さらにその外側に今度はその『中間ゲート』を達成するための『小項目』を立てる。これらを『一つ一つ達成していくこと』で、『中心にある最終ゴール』に近づいていくというものだ。ここでの『最終目標』は高校時代の目標であるため、『ドラ1、8球団』とある。『プロ野球12球団のうち8球団からドラフト1位指名を受ける』という意味であろう。『そのために必要な8項目』をその周囲に並べている。

特に『8項目中の左下の3項目』に注目して欲しい。左下では、『メンタル』『人間性』『運』をあげている。『メンタル』についてはスポーツ選手にとって大切な要素だが、そのまわりにある『メンタルに必要な8項目』のなかの『はっきりとした目標・目的をもつ』『一喜一憂しない』『雰囲気になれない』『波をつくらない』などの『具体性』には驚かされる。



また、『人間性』『運』の周囲にある『16項目』を見て欲しい。これはメジャーで活躍している大谷選手の姿そのままではないか！『運』をも味方につけるために、『あいさつ』『ゴミ拾い』『部屋そうじ』『道具を大切に扱う』『審判さんへの態度』が必要であると位置づけ、実行していたのだ。『運』の項目の周囲に『本を読む』を入れている点にも注目したい。『すぐに役に立つかはわからないが、将来のためにさまざまな本を読んでおく』ということだろうか？こういったことを『高1の冬』に掲げることができていることにも驚かされる。

また、左の写真には『2012.9.19』とある。すなわち『高3の秋』の時点で『世界一の選手に』と書いている。そして実際に達成したと言ってもよい。『はっきりとした目標』を持ち『為すべきこと』を明確にし、日々目標達成のために必要なことを実行した。

私は素直に『今からでも見習いたい』と思った。彼は高校時代からこれを書き、『世界最高峰の野球選手』となった今でもおごることなく実行しているのだ。みんなも『マンダラチャート』を書き、『運』も味方に、『目標』と『為すべきこと』を明確にしてみてもいいか？文責：星野 亨（教頭）

★校長より★ 大谷選手が作成した目標達成シートを皆さんも作ってみましょう。いきなり大きな目標で作るのではなく、最初は練習と思って身近な目標で作ってみると良いと思います。このシートを作成するために必要なことは何でしょうか。一つは「目標の明確化」、もう一つは「目標達成までの道筋立て」そして、「現在の自分自身についての理解」です。「現在の自分自身についての理解」を深めるためには振り返りが必要となります。中山先生の講演でも、丁寧な振り返りが大切だというお話がありましたね。自分自身の振り返りを丁寧に行った上で、目標達成シートを作ってみてください。 校長 原 拓史